

食の幸せのとなりに。

2021年3月期 決算説明資料

ブルドックソース株式会社 (2804)

2021年5月27日

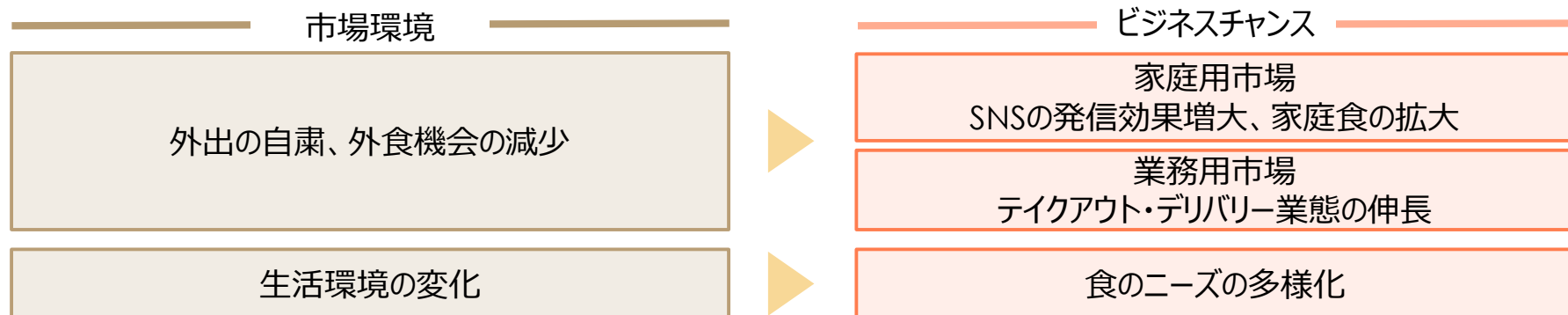


1. 2021年3月期決算について P. 5
2. 2022年3月期業績予想および施策 P.10
3. 中期経営計画「B-UP120」 P.17
4. 会社概要 P.30

2021年1月14日 東京証券取引所市場第一部銘柄に指定

今後も皆様のご期待にお応えできますよう、パブリック・カンパニーとしての自覚を新たにさらなる企業価値の向上に努めてまいりますので、引き続き変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大に伴う市場環境の大きな変化



- 市場の変化を捉え巣ごもり需要に迅速に対応するため家庭用商品の営業体制を強化し、新商品を投入
- オウンドメディアサイト開設により消費者との双方向のコミュニケーションを実現

2021年3月期実績

- 売上高は前期比2.7%増の177.0億円
 - ・ 家庭用商品がけん引
- 営業利益は前期比12.7%増の7.2億円
 - ・ 減価償却費の増加等減益要因があったものの、業務の生産性向上による経費削減および増収効果により増益
- 経常利益は前期比5.3%減の9.8億円、親会社株主に帰属する当期純利益は前年比0.2%増の6.9億円
- EBITDAは前期比12.5%増の14.3億円
- 重要な取り組み、その他トピック
 - ・ マーケティング強化（市場変化への迅速な対応、SNSを通じた情報発信）
 - ・ 生産性向上（グループを挙げた業務改革：創意工夫による生産性向上）
 - － 働き方改革：在宅勤務や有給休暇取得の奨励、時差出勤・フレックスタイムの実施、TV会議の活用、社員教育の充実、ハラスメント相談窓口の拡充

■ お客様の要望から生まれた、全く新しいコンセプト新商品

2021年2月5日発売 **ブルドックJソース**


お好み焼やとんかつなど様々な粉ものや揚げものに合い、おいしく食べられる1本



おいしさの秘密

- ①お肉に合う新スパイス“ジュニパーベリー”をブレンド
- ②かつおや昆布の“和の旨み”
- ③レモンとお酢のさわやかな酸味

添加物（着色料・増粘剤・化学調味料・甘味料）は加えていません。



1. 2021年3月期決算について

(百万円)

	20.3期	21.3期			
	通期実績	通期実績	増減額	増減率	期初予想
売上高	17,235	17,708	472	2.7%	17,800
売上原価	8,432	8,675	242	2.9%	8,820
売上原価率	48.9%	49.0%	-	-	49.6%
売上総利益	8,802	9,033	230	2.6%	8,980
売上総利益率	51.1%	51.0%	-	-	50.4%
販売費及び一般管理費	8,162	8,312	149	1.8%	8,310
販管費率	47.4%	46.9%	-	-	46.7%
営業利益	639	721	81	12.7%	670
営業利益率	3.7%	4.1%	-	-	3.8%
経常利益	1,040	985	△55	△5.3%	980
経常利益率	6.0%	5.6%	-	-	5.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	692	693	1	0.2%	670
親会社株主に帰属する 当期純利益率	4.0%	3.9%	-	-	3.8%
EPS(円)	51.63円	51.71円	0.08円	0.2%	49.96円
一株配当(円)	35.00円	35.00円	-	-	35.00円
配当性向(%)	67.8%	67.7%	-	-	70.1%
設備投資額	344	663	319	92.7%	700
減価償却費	636	714	78	12.3%	726
EBITDA	1,276	1,435	159	12.5%	1,396

※EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

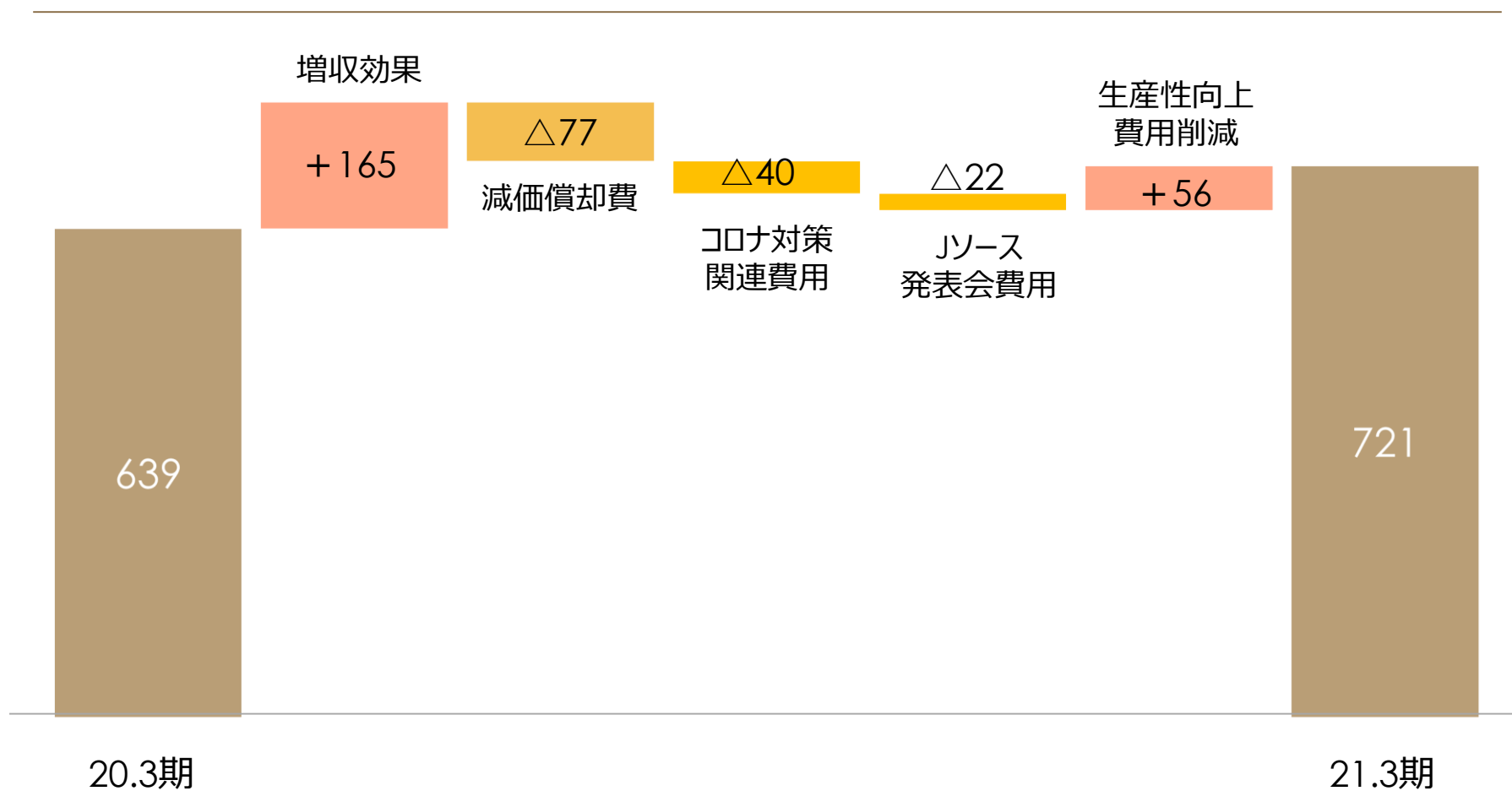
※2019年8月1日付で普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を行っております。

※上記数値は、前連結会計年度の期首に分割が行われたと仮定して計算しております。

(百万円)

		20.3期	21.3期			コメント	
		通期実績	通期実績	構成比	増減率		期初予想
家庭用商品	ソース類 ウスター・中濃・ とんかつ、専用 他	10,769	11,478	64.8%	6.6%	12,016	<ul style="list-style-type: none"> ● 定番のウスター・中濃・とんかつソースは家庭内需要の高まりにより伸長
	ドレッシング類 たれ・ケチャップ 他	2,848	2,903	16.4%	1.9%	3,070	<ul style="list-style-type: none"> ● 家庭内調理機会の増加を受けて手軽に作れる月島もんじゃ焼材料セットが伸長 ● ドレッシング類は定番店舗数減少で期初予想未達成
	計	13,617	14,381	81.2%	5.6%	15,087	
業務用商品		3,617	3,326	18.8%	△8.0%	2,712	<ul style="list-style-type: none"> ● コロナ禍により売上減 ● デリカ・テイクアウト・原料加工向け商品が伸長し期初予想比123%
合計		17,235	17,708	100.0%	2.7%	17,800	

営業利益（百万円）



(百万円)

	20.3期	21.3期		コメント
	実績	実績	差額	
流動資産	9,419	9,979	560	現金及び預金の増加
固定資産	16,411	16,826	414	投資有価証券の増加
資産合計	25,830	26,805	975	
流動負債	3,823	3,970	147	設備投資に係る未払金の増加
固定負債	2,198	2,290	91	繰延税金負債の増加
負債合計	6,021	6,260	239	
純資産額	19,809	20,545	735	その他有価証券評価差額金の増加
自己資本額	19,809	20,545	735	
負債純資産合計	25,830	26,805	975	
自己資本比率	76.7%	76.6%	△0.1%	

(百万円)

	20.3期	21.3期		コメント
	実績	実績	差額	
営業活動によるキャッシュフロー	1,244	1,513	269	減価償却費の増加
投資活動によるキャッシュフロー	△270	△165	104	前期：関係会社株式取得等
財務活動によるキャッシュフロー	△292	△774	△482	前期：運転資金借入
現金及び現金同等物の増減額	682	574	△107	
現金及び現金同等物期末残高	4,276	4,850	574	



2. 2022年3月期業績予想及び施策

①主な変更内容

「収益認識に関する会計基準」等が適用され、販売費及び一般管理費として計上していた販売販促費等が売上高から減額されます。

営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益に著しい影響はありません。

②22.3期実績の影響額

(百万円)

	22.3期 通期予想 (旧基準)	22.3期 通期予想 (新基準)	増減額	
			増減額	増減率
売上高	18,000	13,500	△4,500	△25.0%
売上原価	8,860	8,860	—	—
売上原価	49.2%	65.6%	—	—
売上総利益	9,140	4,640	△4,500	△49.2%
売上総利益率	50.8%	34.4%	—	—
販売費及び一般管理費	8,340	3,840	△4,500	△54.0%
販管費率	46.3%	28.4%	—	—
営業利益	800	800	—	—
営業利益率	4.4%	5.9%	—	—

(百万円)

	21.3期実績 (旧基準)	22.3期 通期予想 (新基準)	22.3期 通期予想	
			増減額	増減率
売上高	17,708	13,500	—	—
売上原価	8,675	8,860	—	—
売上原価率	49.0%	65.6%	—	—
売上総利益	9,033	4,640	—	—
売上総利益率	51.0%	34.4%	—	—
販売費及び一般管理費	8,312	3,840	—	—
販管費率	46.9%	28.4%	—	—
営業利益	721	800	78	10.9%
営業利益率	4.1%	5.9%	—	—
経常利益	985	1,130	144	14.7%
経常利益率	5.6%	8.4%	—	—
親会社株主に帰属する当期純利益	693	790	96	13.8%
親会社株主に帰属する当期純利益率	3.9%	5.9%	—	—
EPS(円)	51.71円	58.84円	7.13円	13.8%
一株配当(円)	35.00円	35.00円	—	—
配当性向(%)	67.7%	59.5%	—	—
設備投資額	663	3,400	2,736	412.1%
減価償却費	714	735	20	2.9%
EBITDA	1,435	1,535	99	6.9%

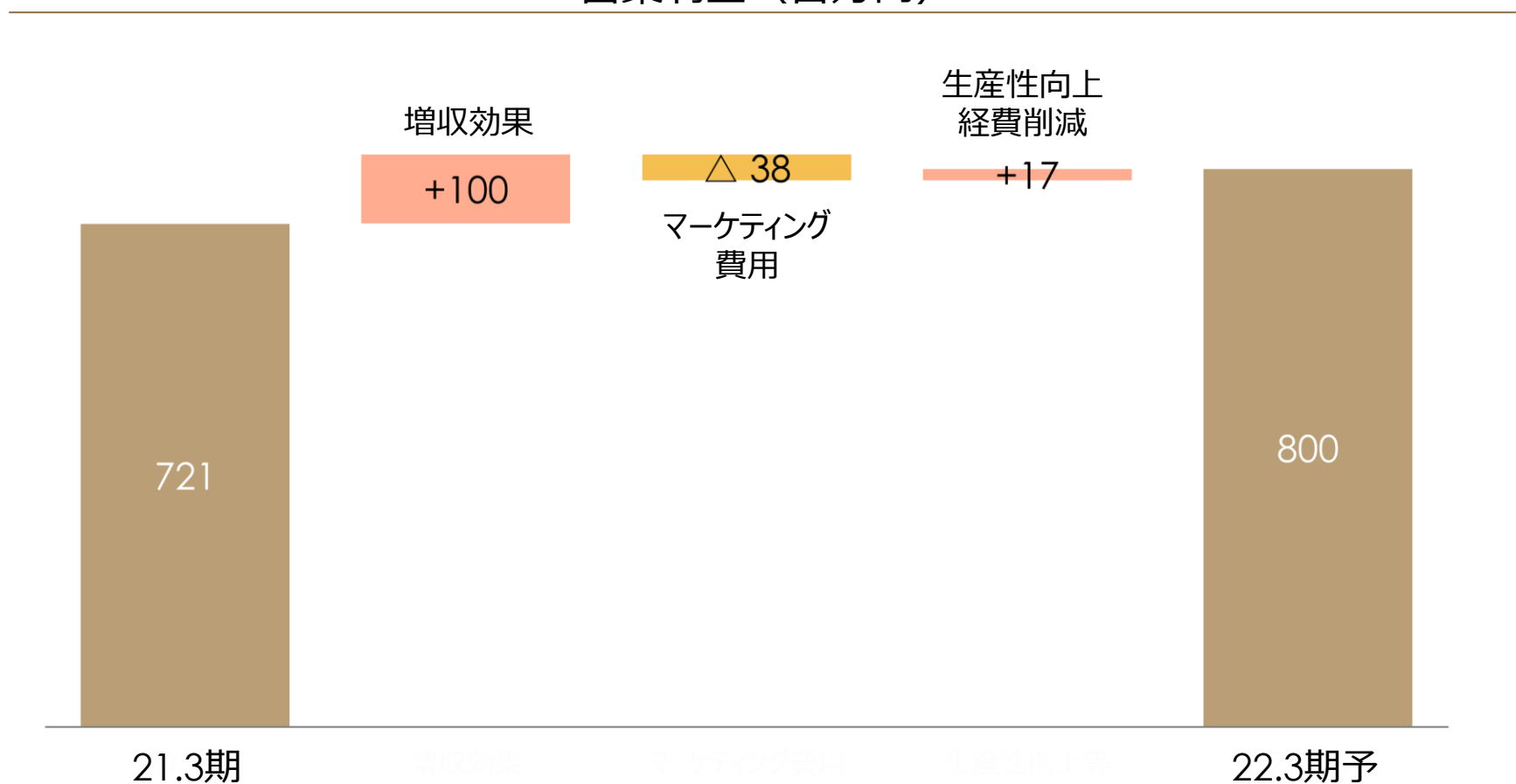
※EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

(百万円)

		21.3期 (旧基準)	22.3期予想		コメント	
			(旧基準)	構成比		増減率 (対旧基準)
家庭用商品	ソース類 ウスター・中濃・ とんかつ、専用 他	11,478	11,488	63.8%	0.1%	<ul style="list-style-type: none"> ● 新コンセプト「Jソース」の消費者向けプロモーションの実施 ● 他メーカーとコラボしてメニューを提案することで需要を拡大 ● 「1セールス3ブランド」政策の強化
	ドレッシング類 たれ・ケチャップ 他	2,903	2,985	16.6%	2.8%	<ul style="list-style-type: none"> ● ブルドックソースグループならではの特徴を加えた商品の拡大 ● ファン獲得のためのプロモーション実施 ● 新たな販売チャネルの開拓
	計	14,381	14,473	80.4%	0.6%	
業務用商品		3,326	3,527	19.6%	6.0%	<ul style="list-style-type: none"> ● SM・CVSの総菜デリカの中食開拓 ● テイクアウト・デリバリー向け商品の拡充による提案強化
合計		17,708	18,000	100.0%	1.6%	

※2021年4月1日より「収益認識に関する会計基準」が適用されますが、上記数値は、当該会計基準適用前の数値であります。

営業利益（百万円）



■ ブルドックソースグループならではの特徴を加えた商品の拡大とファン獲得のためのプロモーション強化

家庭用商品の拡販

- 情報発信の推進強化
SNSを活用したキャンペーンや商品情報のキャンペーン実施（フォロワー数27万人）
- Twitterアカウントの新設
- ブルドックソース、イカリソース、サンフーズ商品をグループ営業体制を通して全国販売（1セールス3ブランド）

ブルドックソース

- 第2の定番ブランドへの育成
 - 今期までに、売上構成3億円を目標
 - 初年度プラン（22.3期）
 - ・ 新商品発表会開催による話題化からの小売店配荷確保
 - ・ WEBメディアを活用した各企画の実施
 - ・ 商品（小袋）試供品サンプリングによる商品認知と販売拡大
- ウェブマーケティングやサンプル配布などにより、新たな顧客層を獲得

業務用商品の強化

- SM・CVSのデリカを中心とした中食開拓
- テイクアウト・デリバリー向け商品の拡充による提案強化



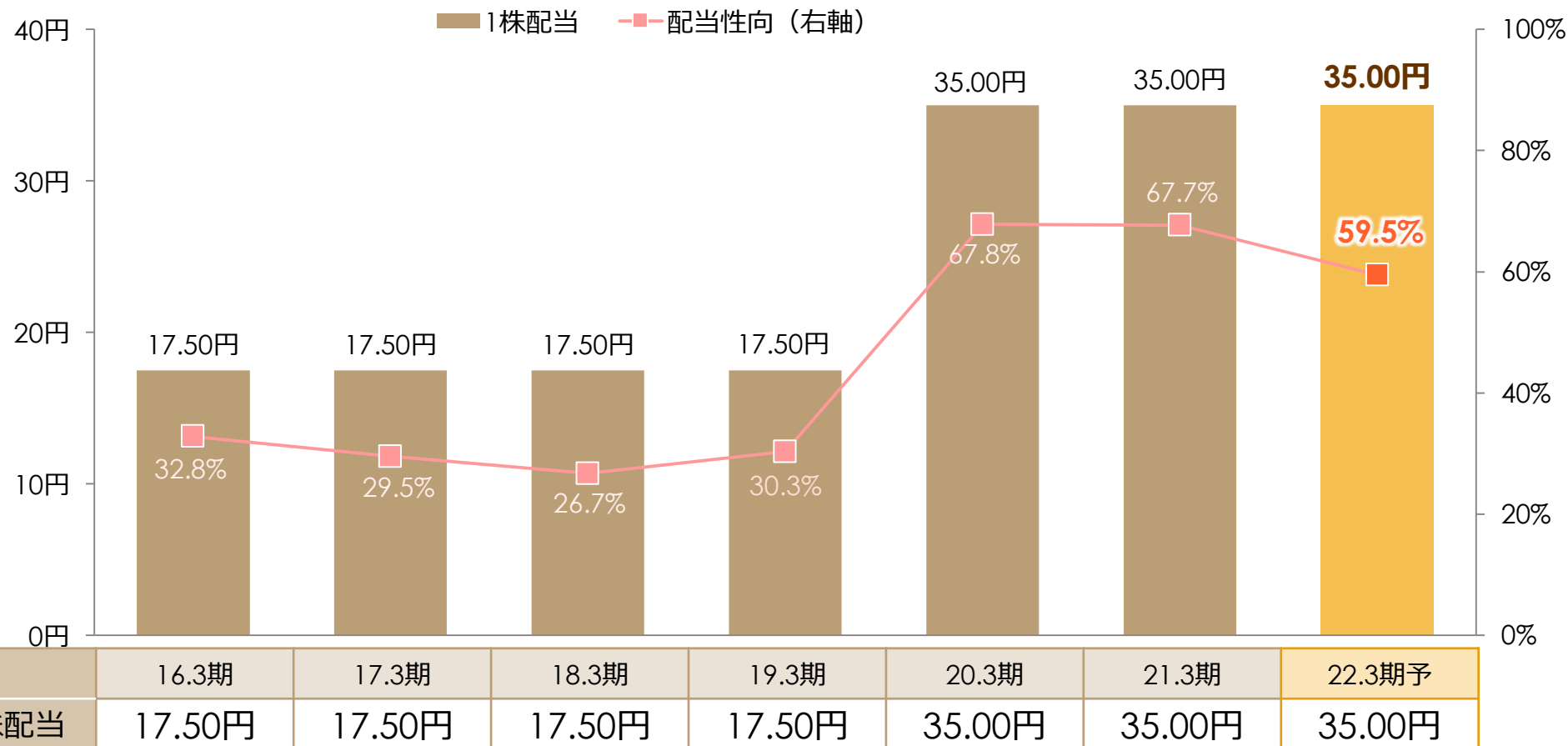
生産性の向上

- グループ調達による原材料費の削減と生産体制再構築の強化
- 働き方改革
 - 70歳までの雇用制度導入



将来に向けた資本政策も勘案し、22.3期は35円配当を継続予定

■ 22.3期は1株配当予定額は35円、配当性向は59.5%を予定



※19.3期以前の数値は以下の株式併合・分割を換算して修正

- ・株式併合：2016年10月1日付で10株⇒1株
- ・株式分割：2019年8月1日付で1株⇒2株

3. 中期経営計画「B-UP120」



B-UP120

Brush Up Plan 120

～新たなステージへ～

ーグループカ・社員力の最大化ー

創業120周年（中計最終年度の2022年度）を機に、
新たなステージへ向けグループを磨き上げる Brush UP

2021.3期～2023.3期中計目標

資本・財務戦略Brush UP

資金循環の活性化



2021.3期での進捗

保有株式一部売却（2.6億円）



生産体制Brush UP

生産性向上に向けた総額84億円の大型投資
3工場から2工場体制へ再編し
営業利益換算で40%の生産性向上を目指す



設備投資実施額（6.6億円）
2022.4着工に向け計画通り



マーケティングBrush UP

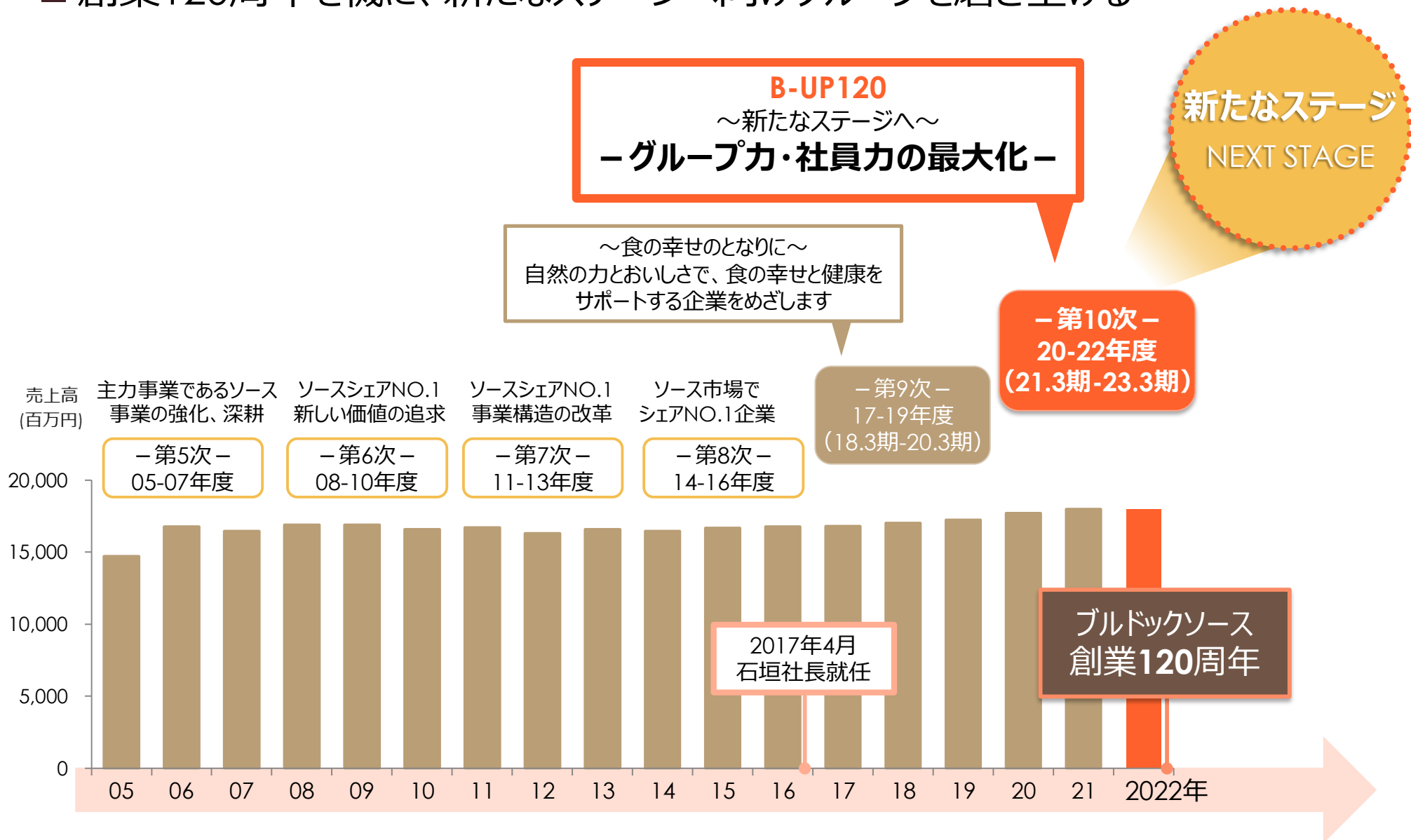
未開拓・手薄領域へのチャレンジ
・業務用の拡販
・ドレッシング類市場の強化
・エリア展開
・海外展開



デリカ・テイクアウト市場開拓（20%増収）
SNSを通じたプロモーション活動の実施
グループブランド販売体制構築（新規開拓）
英語、中国語公式ホームページの公開
上海本格稼働



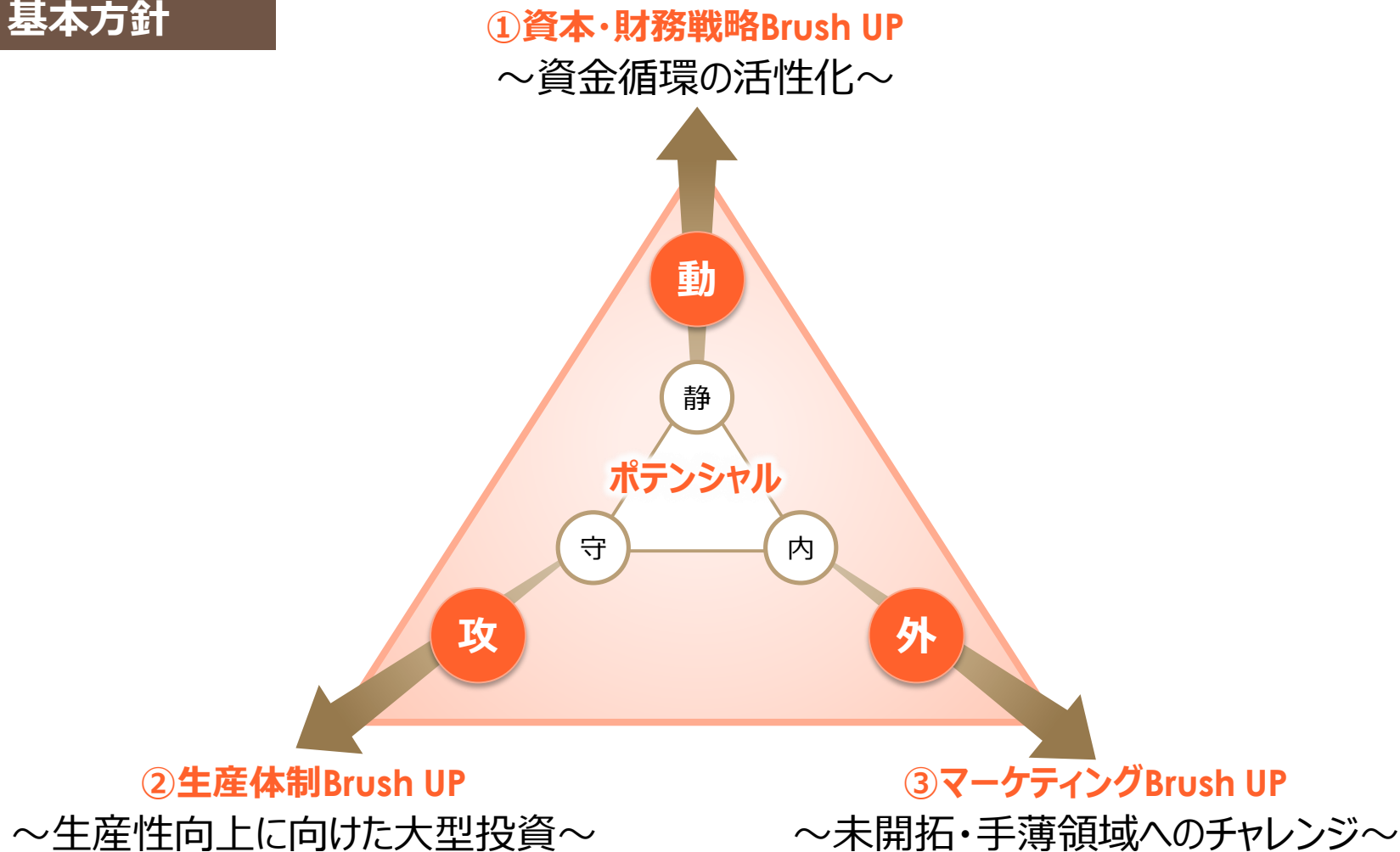
■ 創業120周年を機に、新たなステージへ向けグループを磨き上げる



目指す姿

グループカ・社員力の最大化

基本方針

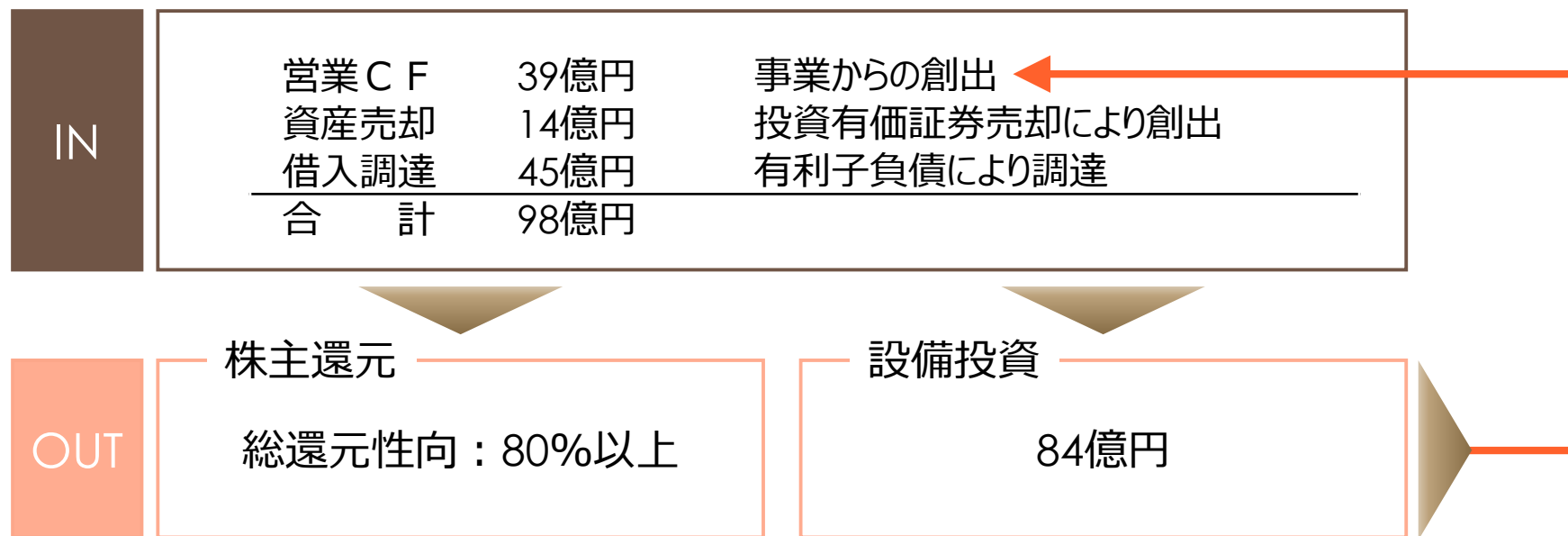


数値目標

項目	目標
1. 総還元性向	80%以上 (23.3期)
2. 設備投資	84億円 (累計)
3. EBITDA	16億円 (23.3期)

CFと資金配分

第10次中期経営計画 B-UP120期間中の累計CF



■ 資金循環の活性化

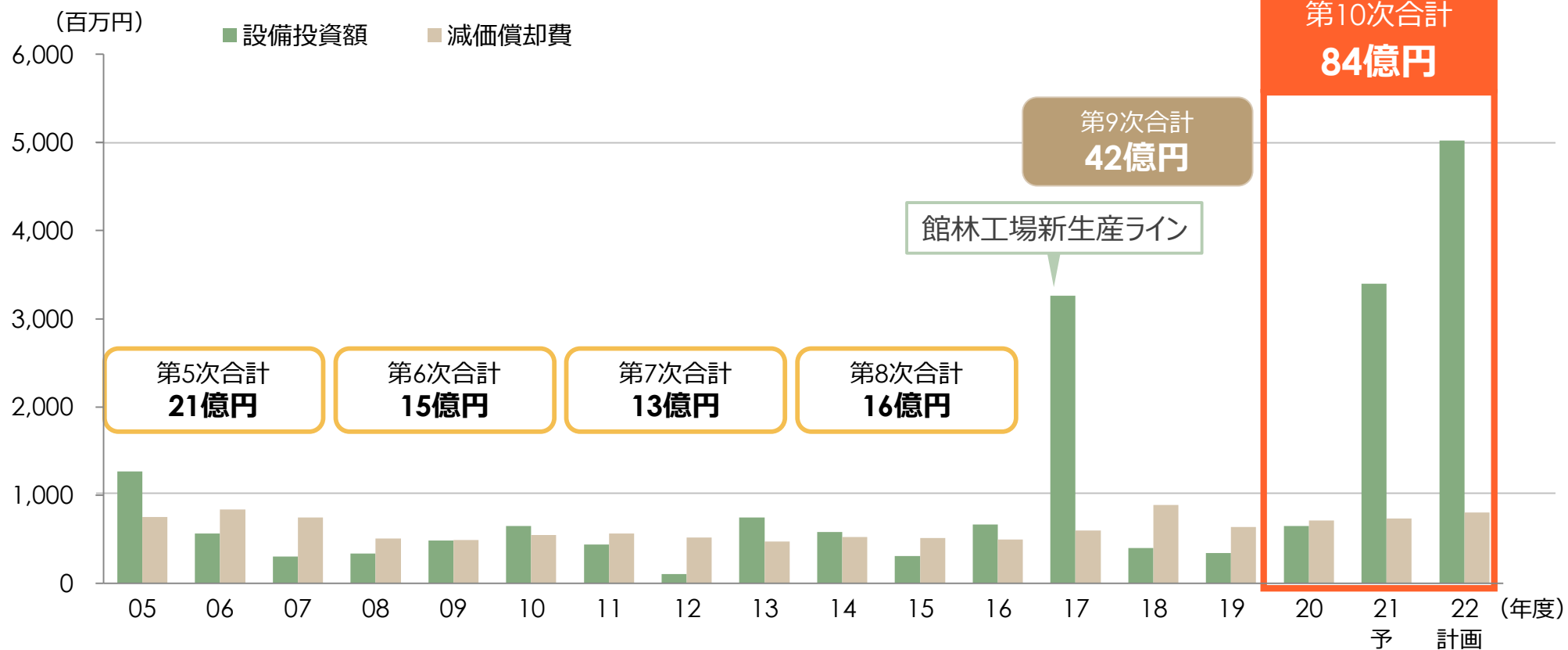
OUT	◆ 株主還元の推進：総還元性向80%以上
	◆ 設備投資：84億円
IN	◆ 保有株式の見直し：14億円 株式保有金額15%削減（84億円→70億円）
	◆ 有利子負債による調達：45億円



項目	23.3期
有利子負債合計	4,550百万円
DELシオ	0.22倍
自己資本比率	66%

■ 生産性向上に向けた総額84億円の大型投資を実施

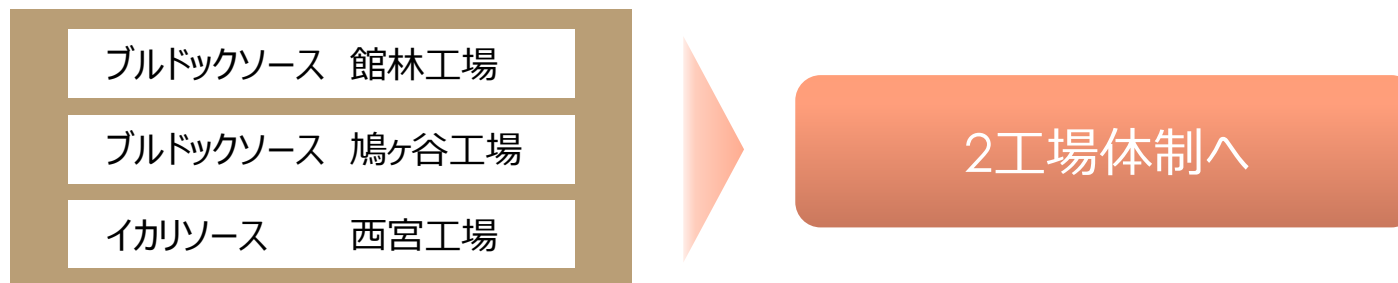
- **生産体制Brush Up : 72億円**
 <竣工予定> 23年度中
- **設備メンテナンス : 12億円**



■ 営業利益換算で40%の生産性向上を目指す

(3.5億円) ÷ (8億円)
 効率アップ効果 ÷ 23年3月期営業利益 にて算出

◆ 3工場を2工場へ



● 新体制により実現する効率化

項目	効率アップ要因	効率アップ効果 (19.3期実績比)	金額
原材料費	<ul style="list-style-type: none"> 原材料副資材の共通化・統合による価格交渉 	60億円→59億円	1億円
外注加工費		1億円→ 0 億円	1億円
物流費	<ul style="list-style-type: none"> 拠点再配置による配送費増 	9億円→ 10億円	△1億円

● 省力化投資により実現する効率化

項目	効率アップ要因	効率アップ効果 (19.3期実績比)	金額
労務費	<ul style="list-style-type: none"> 省力化投資により実現 	9.2億円→6.7億円	2.5億円

■ 未開拓・手薄領域へのチャレンジ

業務用の拡販

中食業界へのアプローチ
グループシェアの低い中食業態へ小袋・
ピロー・PB商品で徹底アプローチ

数値目標：10%アップ、4億円増
(20.3期予想比)

ドレッシング類市場の強化

商品Brush Up
オウンドメディア事業によりグループブランドの
ファンを増やす

数値目標：4%アップ、1億円増
(20.3期予想比)

ソース

エリア展開

広島：サンフーズをグループ化
広島の有名お好み焼ソースブランドを販売面
でのグループシナジー効果を発揮して売上拡
大

数値目標：2億円獲得

海外展開

中国市場の開拓
上海現法からの展開
日本で培ったノウハウを活かし中国の人々に
ソースの美味しさを広める

数値目標：中国で売上1億円獲得

■ 未開拓・手薄領域へのチャレンジ

ブランド別売上高		20.3期 実績	21.3期 実績	計画	23.3期予想	
					差額 (20.3期比)	伸び率 (20.3期比)
家庭用商品	ソース類 ウスター・中濃・ とんかつ、専用 他	10,769	11,478	10,700	△69	△0.6%
	ドレッシング類 たれ・ケチャップ 他	2,848	2,903	2,900	51	1.8%
	計	13,617	14,381	13,600	△17	△0.1%
業務用商品		3,617	3,326	4,400	782	21.6%
合計		17,235	17,708	18,000	764	4.4%

※2021年4月1日より「収益認識に関する会計基準」が適用されますが、上記数値は、当該会計基準適用前の数値であります。

創業120周年からの、新たなステージ

自然の恵みのおいしさで、
食の幸せを世界に広げる
ブルドックソースグループ

最大化された
グループカ・社員力

第10次中期経営計画
B-UP120

(単位：百万円)

	21.3期 実績	B-UP120 計画			20.3期→23.3期	CAGR
		21.3期計	22.3期計	23.3期計		
売上高	17,708	17,650	17,800	18,000	+ 765	1.5%
営業利益	721	620	690	800	+ 161	7.8%
経常利益	985	950	1,020	1,590	+ 550	15.2%
当期純利益	693	650	700	1,090	+ 398	16.4%
EBITDA	1,435	1,420	1,490	1,600	+ 324	7.8%
営業利益率	4.1%	3.5%	3.9%	4.4%	+ 0.7%	
売上高EBITDA比率	8.1%	8.0%	8.4%	8.9%	+ 1.5%	
ROE	3.4%	3.2%	3.4%	5.3%	+ 1.8%	
自己資本比率	76.6%	77%	71%	66%	△10.7%	
DEレシオ	0.0	0.0	0.1	0.2		
設備投資額	663	700	2,700	5,020	3期累計額→	8,420
減価償却費	714	800	800	800	3期累計額→	2,326

	21.3期実績	21.3期計	22.3期計	23.3期計	20.3期→23.3期	CAGR
営業CF	1,513	1,270	1,330	1,250	+ 6	
投資CF	△165	△460	△2,470	△4,180	△3,910	
財務CF	△774	△520	1,440	1,630	+1,922	
現金同等物増減	574	290	300	△1,300	△1,982	
期首残高	4,276	4,276	4,566	4,866	+1,272	
期末残高	4,850	4,566	4,866	3,566	△ 710	

※2021年4月1日より「収益認識に関する会計基準」が適用されますが、上記数値は、当該会計基準適用前の数値であります。

4. 会社概要



「幸福感を味わえる商品をお客様に提供すること」

- ◆ 「お客様やそのご家族が毎日元気で暮らしていただけること」こそが私たちグループが果たすべき使命と考えるからです。
- ◆ ブルドックソースグループは、この社会的使命を果たし、全てのお客様にその価値をご提供できるよう全社員一丸となって「食の幸せのとなりに」をそのスローガンとし、努力してまいります。
- ◆ 今後ともよりいっそうのご愛顧のほど、よろしくお願い申し上げます。



代表取締役 社長執行役員
石垣幸俊

商号	ブルドックソース株式会社 【英文名】BULL-DOG SAUCE CO.,LTD.
創業	1902(明治35)年 食料品卸商三澤屋商店を開業 (1905年 ソースの製造・販売を開始)
設立	1926(大正15)年 9月21日
事業内容	ソース、その他調味料の製造・販売
資本金	10.4億円 [2021年3月期]
従業員数	連結：316名 [2021年3月末現在]
売上高	連結：177億円 [2021年3月期]
関連会社	<ul style="list-style-type: none"> ■ イカリソース株式会社 (100%出資) ■ 株式会社Bullフーズ (100%出資) ■ サンフーズ株式会社 (100%出資) ■ 富留得客食品(上海)有限公司 (100%出資)



Bull-Dog

食の幸せのとなりに。

洋食はいまや、日本の文化です。西洋の料理そのものではなく、日本人の口に合うよう進化した料理です。私たちブルドックソースは、そんな洋食に合ったソースを開発し、日本の洋食を支えてきたと自負しています。

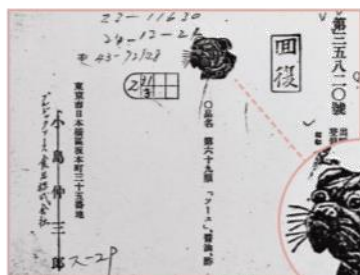
時代が変わり、味覚の嗜好が変わっても、それに合わせたソースをお届けし続けることで、いつも「食の幸せのとなり」にいたいと考えています。



「BULL-DOG」

ブルドックソースの名前の由来

ソース発祥の地であるイギリスで、ブルドッグはシンボル犬として愛されていました。ソースが日本の家庭に馴染んできた大正末期に、ソースと故郷を同じくするこのペット同様に人々に広く愛されるようにと、商品名に「ブルドック」として採用、マークとしました。



明治42年(1909年)
4月5日 申請時の呼
称どおり「ブルドック」
として商標登録



「IKARI」

イカリソースの名前の由来

1895(明治28)年の秋、旧イカリソースの創業者が乗り込んだ船が火事に遭い、彼は自分の救命袋を妻子のいる友人に譲り、観念して海に飛び込みました。もう駄目だと諦めかけていたとき、目の前に救命ランチの錨(いかり)網が。九死に一生を得たことから、このときの感謝の気持ちを忘れないよう、イカリを社名とマークに採用しました。



イカリマークの変遷



1. 明治



2. 大正



3. 昭和初期



4. 昭和15年以降

イカリマークのデザインは、現在までに5度変わっております

洋食が始まる明治期に創業し、日本の食生活とともに成長



ブルドックソース



鳩ヶ谷工場

とんかつソース発売

埼玉の鳩ヶ谷に工場を新設

現在の茅場町交差点に
新社屋が完成

「ブルドック」の商標を登録
「NO.1特製ブルドックソース」として販売

犬印ソースとして
自社ブランド商品を製造

創業者、初代小島伸三郎
は日本橋に当社の前身で
ある三澤屋商店を創業

1896

大阪市此花区伝法に工場を設立

1902

1905

1909

1912

業界として日本初の全自動びん詰めラインを設置し稼働

1929

1935

1951

1953

1963

1964

1966

1970

1973

1981

1983

1990

1998

2005

2009

2010

2012

2014

2015

2017

2018

2019

2021



中濃ソース発売

九州工場竣工

業界初のプラスチック容器を採用した「ポリパック」発売

唐辛子の辛味成分を抽出する特許取得

西宮工場竣工

業界初のビタミン入り低塩ソース「健康ライフ」発売

ノンオイルドレッシング「野菜のドレス」発売



ブルドックソースグループとしてスタート

イカリソース特許登録

株式を東京証券取引所市場第二部に上場

館林工場を新設。鳩ヶ谷と館林の2工場体制



中国現地法人「富留得客(北京)商貿有限公司」設立

イカリソースをグループ化



2010年モンドセレクションの金賞受賞



うまソース発売

鳩ヶ谷工場・
館林工場
FSSC22000取得

西宮工場
FSSC22000
取得

新ブランド「& Bull-Dog」発売

株式を東京証券取引所市場
第一部銘柄に指定

中国現地法人
富留得客食品(上海)
有限公司設立



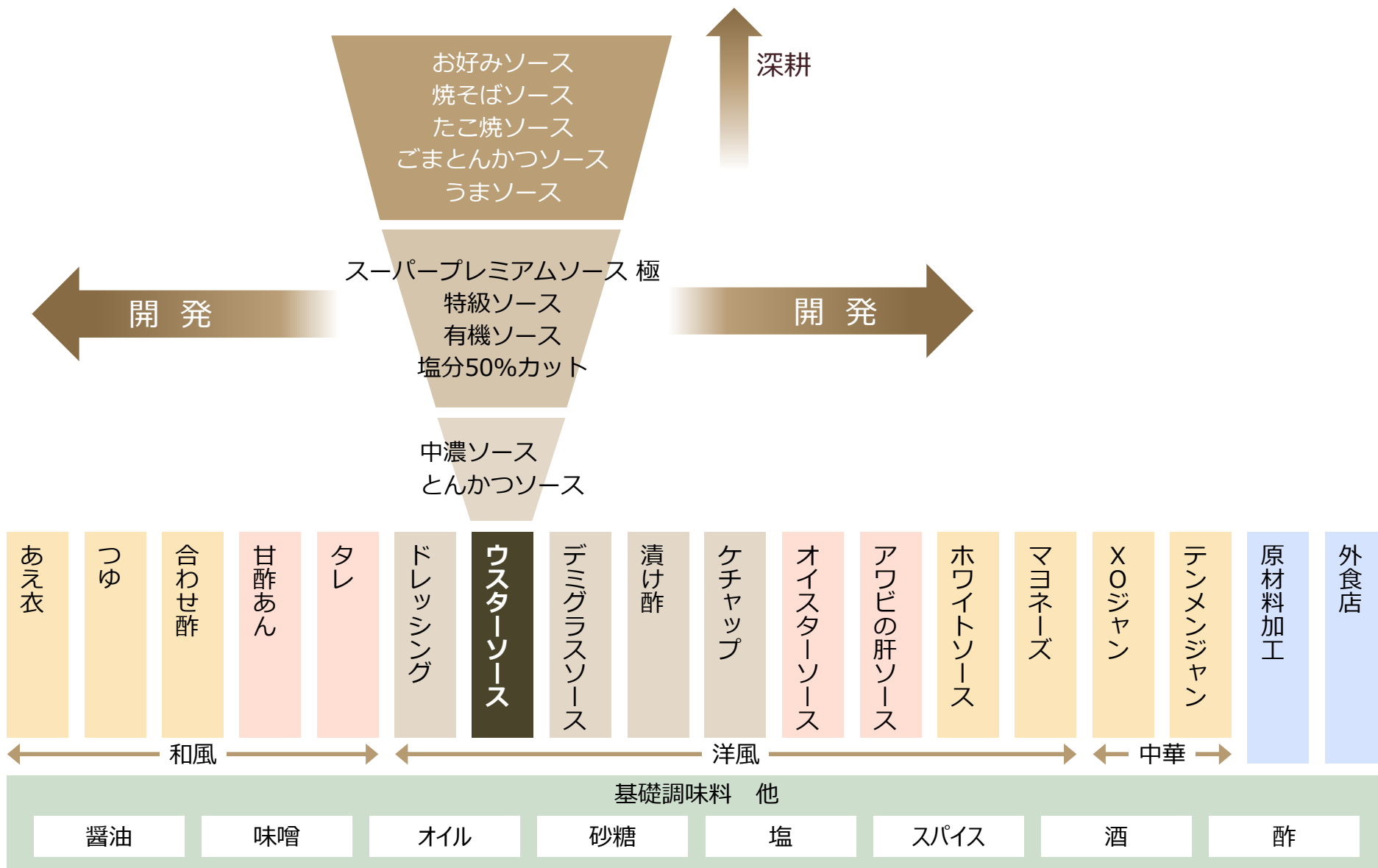
イカリソース

IKARI SAUCE CO., LTD.

イカリソース誕生

本格的ソースとしては、国産第1号となった「錨印ソース」を発売

	主な製品	パッケージ
<p>家庭用商品 ソース類 (ウスター・中濃・ とんかつ、専用)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ レギュラーソース ◆ (ブル/イカリ) ◆ お好みソース(サンフーズ) ◆ Jソース(ブル) 	
<p>家庭用商品 ドレッシング類 たれ・ケチャップ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 月島もんじゃ焼(ブル) ◆ & Bull-Dog (ブル) ◆ 野菜のドレ、たれ(イカリ) ◆ 季の皿(イカリ) 	
<p>業務用商品</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 小袋、1L、1.8L、10L、20L ◆ 他PB多数(ブル/イカリ) 	



■ブルドックソースはイギリス伝統のウスターソースを日本風にアレンジ

●ソースの本流を司る会社

■ソースの歴史

ソースの発祥

ソースはロンドンの北西180kmほどの、イングランド中央、ウスターシャー地方のウスター市に住む主婦が、野菜や果物を香辛料や塩と一緒につぼに入れて保存しておいたところ、しばらくして食欲をそそる美味しそうな香りの液体になっていたのがはじまりと言われています。その後、ソースのおいしさに着目したリー・アンド・ペリンス社によりウスターソースとして商品化されました。



■ たくさんの自然素材の力を引き出して、安心な商品を作っています。

レギュラーソースは食品添加物を加えておりません！

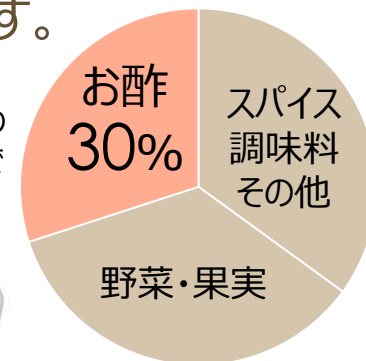
10種類以上のスパイス

主なソースにはと唐辛子や生姜をはじめ、10種類以上のスパイスがブレンドされています。ブレンドのバランスがソースの味の秘訣に！



お酢が約30%も入ってます。

ソースはその30%がお酢でできています。疲労回復や食欲増進に効果があると言われるお酢。ソースの味を引き締めるだけでなく、防腐・殺菌の効果もあります。



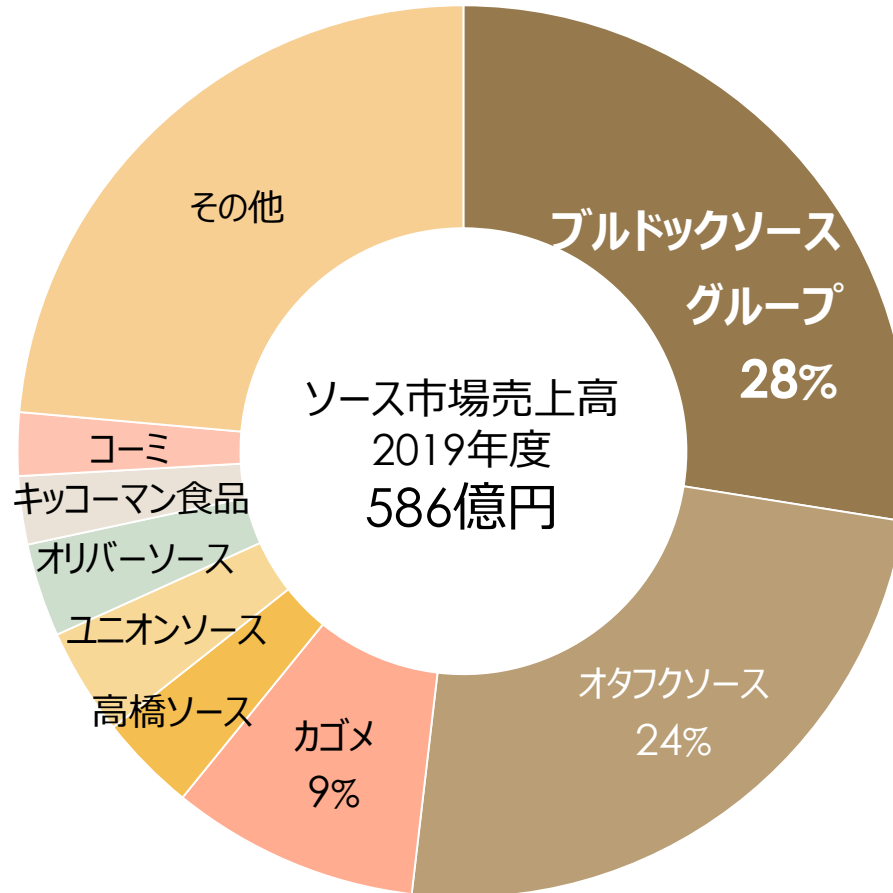
原材料に占めるお酢の比率

ソースは、かける野菜・果物！

ソースには、トマト、たまねぎ、リンゴなどの野菜や果物が豊富に含まれています。その味が自然な甘さや酸味となり、ソースのおいしさとなっているのです。自然素材のチカラとおいしさを存分に引き出すため、素材そのものの味わいや風合い、色合いなどを出せるよう、日々の研究開発に注力しています

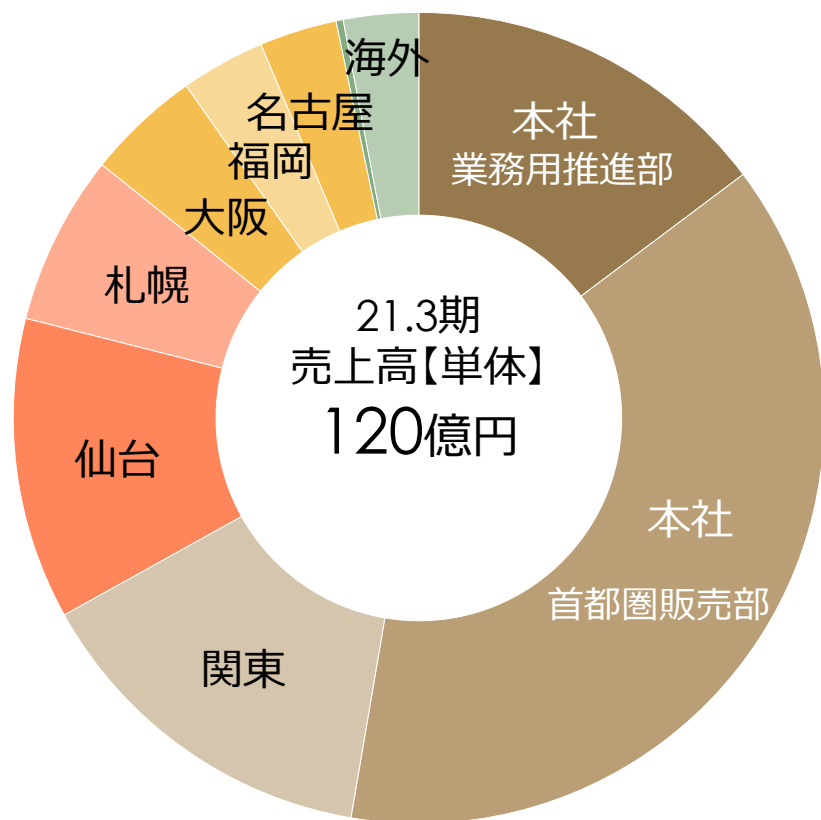


ソース市場 メーカーシェア

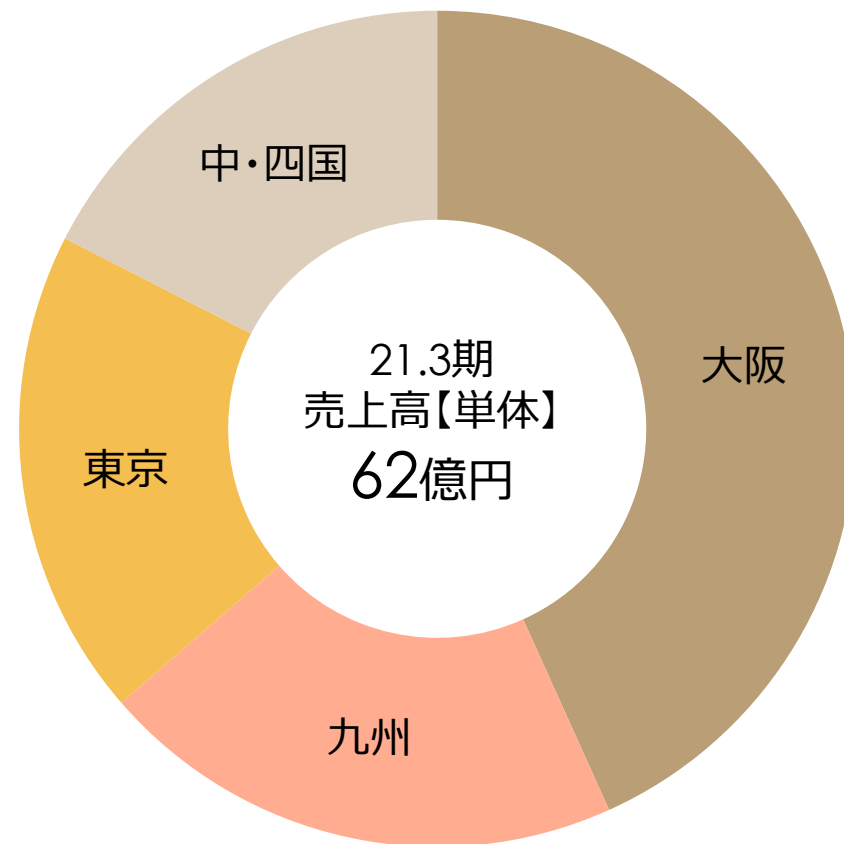


出所) 「2021年食品マーケティング便覧No.5」富士経済

ブルドックソース拠点別売上構成比



イカリソース拠点別売上構成比





■ 食品安全への取り組み

- お客様やご家族が毎日元気で暮らせるために、安全・安心・信頼できる企業であり続ける事を前提として、グループで食品安全を最優先に企業活動を取り組みます。



毎日安心してお召し上がりいただくために、徹底した衛生管理がなされた工場で生産されています。原料についても素材にこだわり品質をチェックし合格したものだけを受け入れております。素材の力を引き出しておいしいものを届けたいその思いから、主力商品は、カラメル色素・増粘剤・化学調味料・甘味料などの食品添加物を加えておりません。総合的な衛生管理システムで生産から出荷までの製造工程を厳しく管理しております。

食品安全システム

ブルドックソース、イカリソースは、
FSSC22000を取得致しました。

ブルドックソース鳩ヶ谷工場・館林工場、及びイカリソース西宮工場は、食品安全FSSC22000を取得しました。

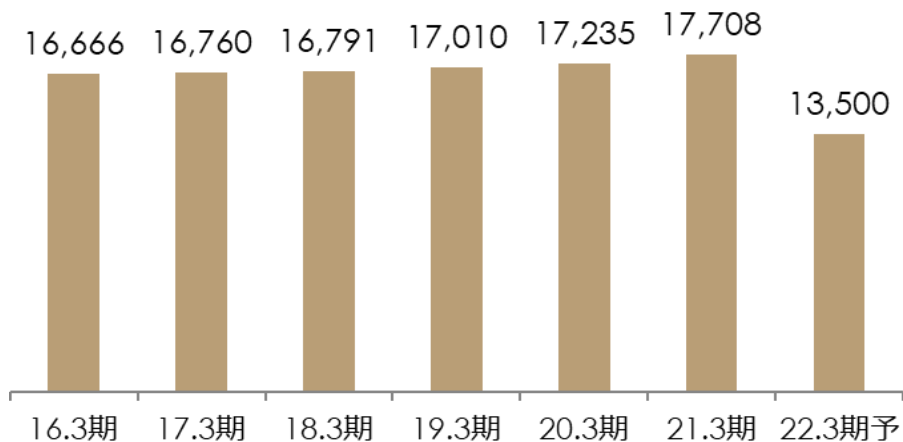
FSSC(Food Safety System Certification)22000は、食品製造組織に向けた、新しい食品安全システムの国際規格です。



食品安全方針

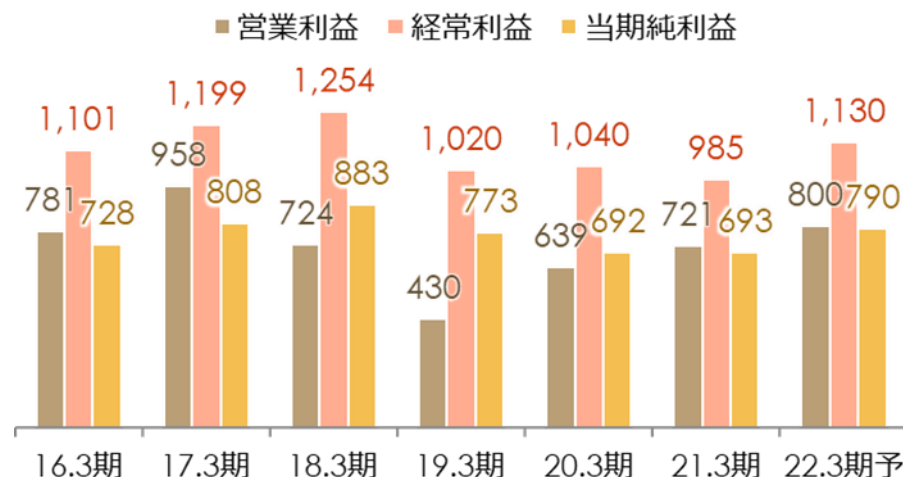
1. 食品安全関連法規制及び当社が同意したお客様要求内容について遵守します。
2. フードチェーンの一員として常に食品安全を優先し、お客様との食品安全に関するコミュニケーションを大切にして食品安全に影響する問題を全従業員に周知徹底します。
3. 食品安全の意識・知識・行動を身につけるため全従業員に教育を実施します。
4. 食品安全行動を実施するために、組織と具体的な行動規定・手順を策定します。
5. 定期的なマネジメントレビューを実施し、法規制対応・方針・規定・手順等の有効性確認と見直しをして継続的且つ適切に実行します。

売上高 (百万円)



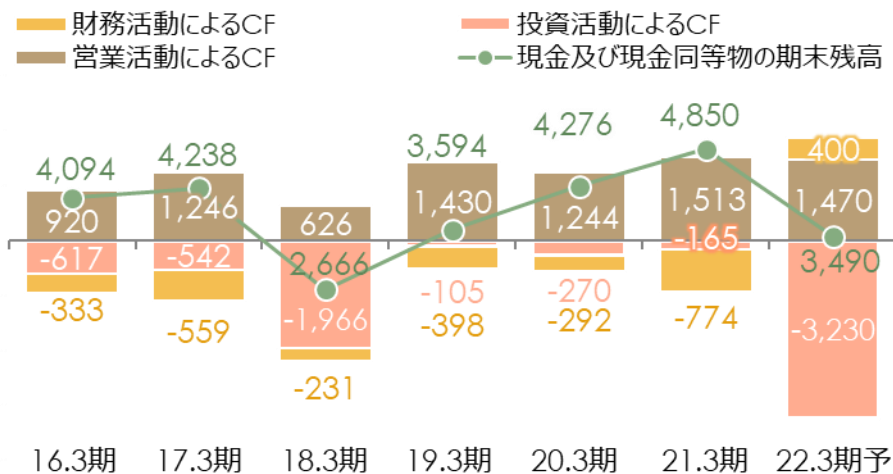
※22.3期予は、収益認識会計基準適用後の数値を記載しております。

利益 (百万円)

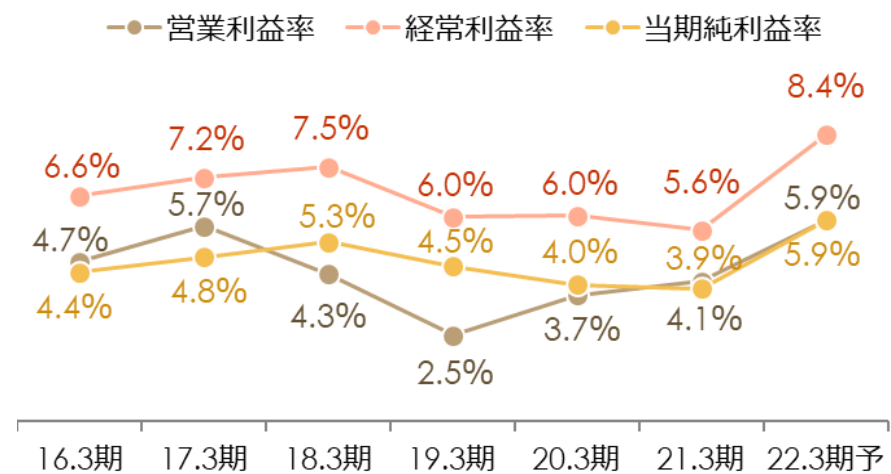


※当期純利益 = 親会社株主に帰属する当期純利益

キャッシュフロー(百万円)

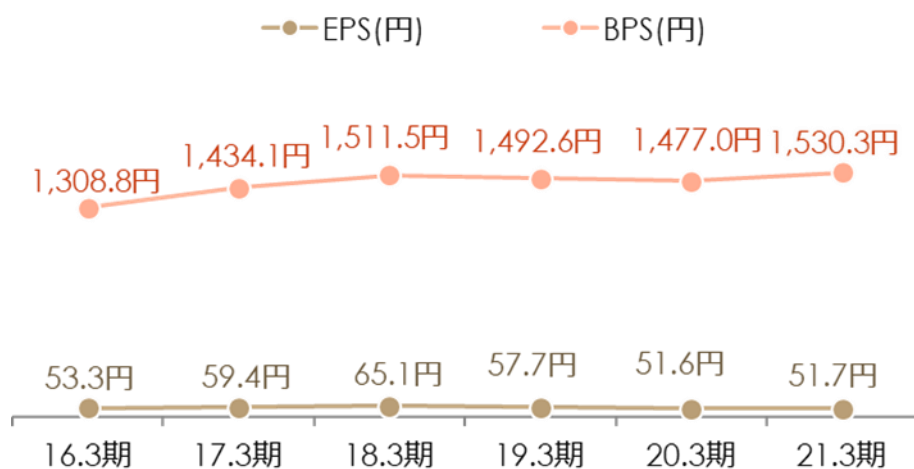


利益率 (%)



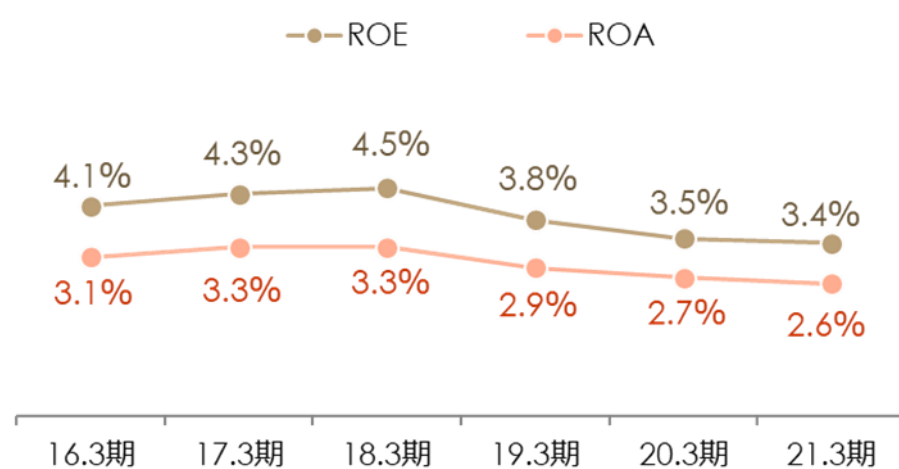
※当期純利益率 = 親会社株主に帰属する当期純利益率
 ※22.3期予は、収益認識会計基準適用後の率を記載しております。

EPS・BPS (円)



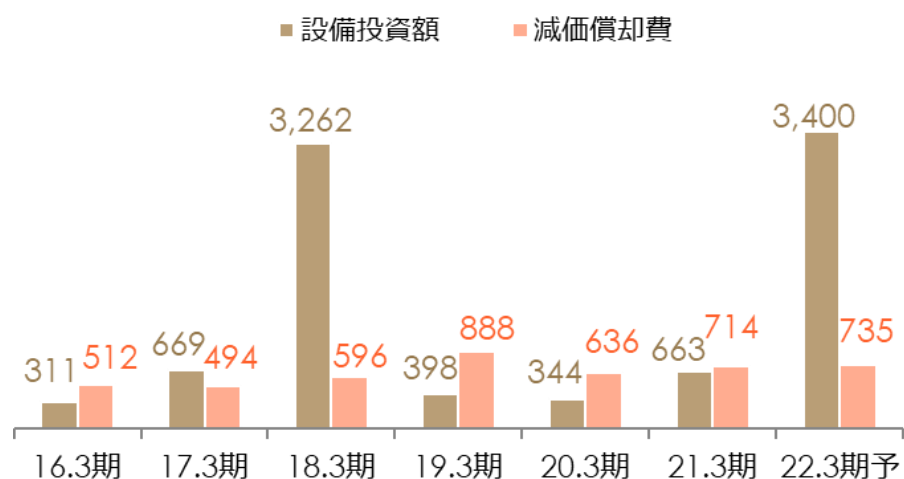
※19.3期以前の数値は以下の株式併合・分割を換算して修正
 ・株式併合：2016年10月1日付で10株⇒1株
 ・株式分割：2019年8月1日付で1株⇒2株

ROE・ROA (%)

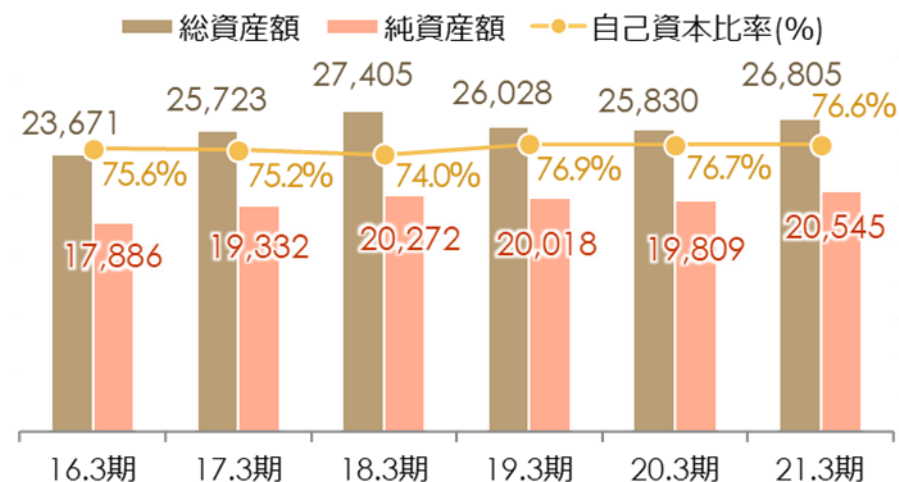


※ROA = 当期純利益 / 期中平均総資産額

設備投資額及び減価償却費 (百万円)



総資産額・純資産額、自己資本比率 (百万円、%)



業績予想の適切な利用に関する説明

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が本資料の発表日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により、大きく異なる可能性があります。

その他留意事項

資料内数値は百万円未満切捨て表示し、百分率は元データから算出しております。